



平成 30 年 1 月 11 日

各 位

会 社 名 Shinwa Wise Holdings 株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 倉田 陽一郎  
 (JASDAQ・コード2437)  
 問合せ先 経理部長 益戸 佳治  
 電話番号 03-5537-8024  
 (<http://www.shinwa-wise.com>)

平成 30 年 5 月期第 2 四半期累計期間の業績予想値（連結・個別）と実績値との差異  
 及び平成 30 年 5 月期通期個別業績予想値の修正に関するお知らせ

平成 29 年 7 月 14 日に公表しました平成 30 年 5 月期第 2 四半期累計期間（平成 29 年 6 月 1 日～平成 29 年 11 月 30 日）の連結及び個別の業績予想値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、平成 30 年 5 月期通期の個別業績予想値を下記のとおり修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想値と実績値の差異について

平成 30 年 5 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想値との差異  
 （平成 29 年 6 月 1 日～平成 29 年 11 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期純利益	1 株当たり四半期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	2,249	139	102	59	円 銭 9.88
実 績 値 (B)	1,210	△38	△65	△73	△11.76
増 減 額 (B - A)	△1,038	△177	△168	△133	
増 減 率 (%)	△46.2	—	—	—	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 29 年 5 月期第 2 四半期)	1,794	△0	△36	△37	△6.53

< 差異の理由 >

売上高はオークション関連事業で 94 百万円の増加、エネルギー関連事業及びその他の事業で 1,133 百万円の減少、営業利益はオークション関連事業で 28 百万円の増加、エネルギー関連事業及びその他の事業で 206 百万円の減少となりました。エネルギー関連事業では、低圧型太陽光発電施設の販売において、購入需要は引き続き旺盛であったものの、平成 29 年 4 月に施行された改正 FIT 法による認定制度の大幅な変更により市場が混乱する中、確実に連系が可能な仕入案件の厳選に当初予想よりもはるかに多くの時間を費やすこととなり、当第 2 四半期連結累計期間は 50 基の販売計画に対し 13 基の販売実績に止まりました。現時点では、市場の混乱も概ね収まってきており、仕入案件を確保しつつあるため、上半期の計画の大半が下半期にずれ込む形となる見込みであります。その他、当第 2 四半期連結累計期間より、海外不動産販売の紹介を中心とするウェルスマネジメント分野に参入し、米国テキサス州の中古不動産物件紹介事業を開始いたしました。現地の税制及び経済状況、不動産事情が日本では殆ど知られておらず、キャピタルゲインが享受できる収益物件であることを浸透させることに当初の想定よりも大幅な時間を費やしたため、販売件数・利益率ともに当初計画を大きく下回

る結果となりました。

オークション関連事業では、基幹事業の他、これまで当社グループが培ってまいりました富裕層ビジネスから、シンワダイヤモンド倶楽部を発足させ、資産防衛のためのダイヤモンド販売を開始いたしました。しかし、「金からダイヤモンドへ」の考え方の変換、浸透には当初の予想よりも時間を要し、当初の売上計画を下回りました。

これらが、当第2四半期連結累計期間の連結業績予想値と実績値との差異の主な要因であります。今後につきましては、オークション関連事業における資産防衛のためのダイヤモンド販売が加速するものと見込んでおり、また、エネルギー関連事業では相当数の低圧型太陽光発電施設の販売を見込んでおり、従いまして、通期の連結業績予想につきましては、前回公表値を据え置くものとします。

## 2. 個別業績予想値と実績値の差異について

平成30年5月期第2四半期（累計）個別業績予想値との差異  
（平成29年6月1日～平成29年11月30日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	460	2	1	円 銭 0.18
実績値(B)	510	△83	△50	△8.14
増減額(B-A)	49	△85	△51	
増減率(%)	10.8	—	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成28年5月期第2四半期)	375	△53	△25	△4.38

### <差異の理由>

当社は、平成29年12月1日より、持株会社体制へ移行いたしました。その移行の過程で、当社の在庫商品のうち一部を、グループ内の子会社を通じてプライベートセールにより販売いたしました。その結果、個別業績では、売上高のみ大幅に増加することとなりましたが、当社の基幹事業でありましたオークション関連事業では、連結ベースでは、ほぼ当初の計画通りの実績値となっております。

## 3. 通期の個別業績予想値の修正について

平成30年5月期通期個別業績予想値  
（平成29年6月1日～平成30年5月31日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	1,000	67	54	円 銭 8.93
今回修正予想(B)	844	67	54	8.93
増減額(B-A)	△155	0	0	
増減率(%)	△15.6	0.00	0.00	

<修正の理由>

当社は、平成 29 年 12 月 1 日より、持株会社体制へ移行いたしました。通期の個別業績の売上高は、オークション関連事業を事業会社である Shinwa Auction 株式会社に移管したことにより、減少する見込みであります。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があることにご留意ください。

以 上